

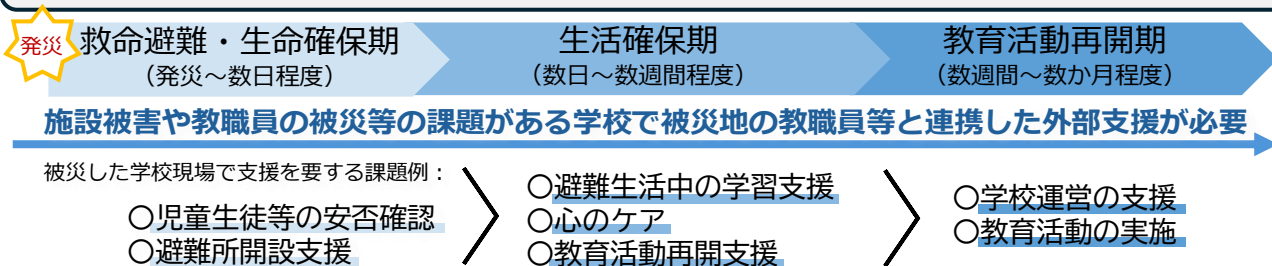
「被災地学び支援派遣等枠組み」(D-EST) 最終まとめ 概要

2024年12月24日
省内検討会議



<検討の背景>

- 能登半島地震では学校の校舎やグラウンド等が被害を受け、教職員も被災者となる中、多くの学校で避難所開設され学校再開に必要な人員が不足
- こうした中で、子供たちの学びを速やかに確保するため、被災地外からの教職員等の派遣による支援が重要な役割を果たしたが、被災地での支援ニーズ等の迅速・的確な把握や、5県が設置する学校支援チームと国との連携体制などに課題があった。



<学校支援チームとは>

- ・ 訓練された教職員等が被災した学校の支援（学校再開のための環境整備、心のケア等）のため派遣
- ・ 兵庫・熊本・三重・宮城・岡山の5県でチームを設置
- ・ 能登半島地震でも、発災直後から各県チームが独自に被災地に入り、学校の早期再開に向けて支援を実施

9月の能登豪雨でもD-ESTの一環として文科省職員等を派遣しニーズ等を把握して支援に繋がったところ、今後の大規模災害に備え、被災地での速やかな学びの確保を図るため、被災地外からの教職員等の派遣枠組み（D-EST）を構築し、その実質化を図る。

Disaster Education Support Team

